令和４年度

事　業　報　告　書

設置者	学 校 法人　頭 陀 寺 学 園								
幼稚園名	幼保連携型認定こども園　ずだじこども園								
理事長	鈴 木 俊 徳				園 長	鈴 木 俊 徳			
所在地	浜 松 市 南 区 恩 地 町 291 番 地								
定 員		計	0歳	1歳	2歳	満3歳	年少	年中	年長
	クラス数	16	1	1	1	1	4	4	4
	定員人数	320	9	15	24	20	84	84	84
実人員 5月1日	クラス数	13	1	1	1	1	4	3	3
	1号	176				4	53	62	57
	2号	50					23	14	13
	3号	36	3	15	18				
	合計	262	3	15	18	4	76	76	70

★事業の推進

乳幼児の保育・教育には、乳幼児を取り巻く社会環境を十分に考慮し、乳幼児の保育・教育の果たす使命の認識と実践の推進を図る。教職員の各種研修会に参加し資質の向上を図り、研修事業の充実を行う。同時に園内の施設設備の安全確保と維持管理の充実を行う。

★教育事業

①親子を取り巻く社会状況を考慮し、保護者の子育てを支援し、家庭における子供の育つ環境を充実させるための保護者教育を行った。

イ）年間を通して子育て教室（0～2 歳対象）を開催した。

ロ）親子の関係と愛着について(講師：西脇先生)

ハ）歯の大切さと歯磨きの仕方学んだ。(講師：保健士さん)

②教職員の資質向上のために、各種研修会に参加。園内研修においては臨床発達心理士による愛着理論、発達課題を通して同年齢、異年令との交流を深め、人間関係を学ばせるための研修を行った。

防災防犯に備え、知識の習得、判断、行動が起こせるように研修した。

イ）非常時に備え、ＡＥＤ、人肺蘇生法講習他を行った。

ロ）交通教室を開催して、道路の歩き方、渡り方を学んだ。

ハ）児童虐待防止についての研修

ニ）毎月の避難訓練（火災、地震や不審者対応訓練）

ホ）園医による感染症防止について

③年間を通してお年寄り、親子、地域の人、友達との異年令交流を行った

イ）年間を通して親子の触れ合い活動を実施した。

ロ）年間を通してデイサービス施設(ココくらぶ)を訪問・交流（年長組)、朝市に出かけ､物の売買を学ぶとともに､地域の人と触れ合う機会を持った。

ハ）動物との触れ合いを楽しんだ。

④子供たちが主体的に取り組むための行事を行った。

イ）運動会（園内）

ロ）保育発表会（浜北文化センター）

ハ）growth festival（作品展）

⑤野菜の種蒔き・苗つけから収穫までの作業を通して、植物の一生を学ぶことにより育てることの難しさと、自然の厳しさを学んでいる。そして畑作業の大人と交流を深めている。また種、若芽を鳥から如何に守るかを学んでいる。

⑥年間を通して絵本を見たり、専門家の話や読み聞かせをしたりして楽しんだ。

⑦カウンセリングの先生を招き、毎月保護者の教育相談を行った。

⑧教職員の資質向上のため、教職員の園内研修、園外研修に参加した。

★施設設備事業

①西棟（うさぎ１・うさぎ２）北棟（うさぎ３）離棟（多目的教室３）の４教室及び遊戯室の床（木製）が痛んできたため補修、ワックス掛けを実施した。

②遊具の修理を行い安全管理に努めた。

③動物とのふれあいコーナーを設置した。

★安全管理事業

①災害時に備え、年間を通して多様な訓練を行った。
②東海沖地震に備え飲料水・食料の補充を行った。
③防災防犯に備え、研修を通して安全管理に対する一層の意識を図った。
④自然災害に備え、教職員の防災教育・訓練を行った。
⑤全館、蛍光灯照明から LED 照明へ変更した。
⑥車内点検サポートシステム「かくにん君」導入
⑦（木製）大型遊具設置

学部（中期）評価

未満児	未満児全体で話し合いを重ね、部屋や回廊の環境作りを行った。成長に伴い遊びの環境を変化させることが課題となったため、子どもたちの様子や年齢に合った発達を理解するなどの研修の場を設け、理解を深めていった。全体での話し合いを重ねることで、他学年への意識が高まり、学年の垣根を越えて保育部全体で声を掛け合い連携が図れるようになってきた。
以上児	日々の保育の中で子どもたちの実態把握に努め、行事のみ活動ではなく日々の様子から繋げていったため、子ども達も生き生きと生活する姿見ることができた。成長段階を理解し、個々の成長に寄り添うことで充実感と安心感が得られる環境を整えていった。計画の立案に関しては先を見据えた計画が足りていない面があったように思う。

学年（短期）評価

０歳児	０歳児の１年を大切にし、個々の子供たちの成長を的確に捉え、喜怒哀楽等、情緒的な表現を大切に受け止め愛着関係の形成に努めていった。月齢によって発達が異なるため、個々の関りを時間にとらわれずに保育していった。職員・保護者と連携を密に行い個々の成長に喜びを感じられるよう努めていった。
１歳児	探索行動が増える時期という事をふまえて、自発的な行動に寄り添っていった。そのため、安全な環境づくりを心掛け、子供たちの欲求や意思を十分受け止められるようにしていった。保育者とのやり取りの中で言葉の取得をしてく時期であるため、子供たちの気持ちを理解できるよう努力し、目を見てゆったりと言葉をかけ安心した環境に整えていけるよう心掛けていく。
２歳児 満３歳児	自我の芽生えの時期であるので、気持ちを好意的に受け止める時間を大事にしてきた。また、興味関心を高められる遊び環境を整え、成長を促していく。第一次反抗期の時期で保護者の中で、子供たちの成長期に不安を起こしやすい時期でもあるため、園と保護者の連絡を密に不安を取り除いていけるよう関わった。
３歳児	園に登園することに安心を感じられるよう、学遊び環境を見守り、それぞれの子の興味関心を広げられるようおおらかな気持ちで見守っていく。子どもの行動には成長に必要な行動が隠れていることが多いので、その子にとって必要な事柄を把握し、職員間又は保護者との話し合いを行い、よりより成長を促せるよう心掛けた。
４歳児	集団の意識が出始める成長時期であり、活動を楽しめる年齢にも達する頃なので、集団遊びなどの簡単なルールのある（他者とつながる）遊びを意識的に取り入れていった。他者との関わりの中での情緒不安に寄り添い、様々な気持ちがあることに気づかせていく。
５歳児	自信をもって自己表現を行い、自分と友達の違いを受け止め、認め合えるよう、生活の中で工夫していく活動をメインに行った。行事は日常の通過点という事を念頭に置き、行事中心になりがちな面に気を付けて過ごしていけるよう、日々を大切にしていく。 日常の中で、友達と一緒に過ごす楽しさ、難しさ等、様々な感情に気づき、話し合いの場を持って関りの中での気づきを大切にしていきたい。また、就学時に自信をもって、卒園していけるよう、様々な経験を大切にできる環境を整えていきたい。